# 百年花田学校志

# 「百年花田学校誌」正誤表

| ページ | 段 | 正 | 誤 |
|---|---|---|---|
| 2 | 下 | 削除 | 誦習の由来，白井烟嵩書 |
| 3 | 上 | 河合陸郎 | 河合睦郎 |
| 20 | 中 | 花ケ崎合併して | 花ケ崎合併に |
| 21 | 上 | 推定図（明22・23年頃） | 推定図（昭22・23年頃） |
| 36 | 中 | 国定三期本 | 国定方三期本 |
| 58 | 中 | 青少年学徒ニ賜ハリタル勅語 | 刺語 |
| 61 | 下 | 明治8年ごろの授業料袋 | 授業袋 |
| 62 | 中 | 神国思想 | 神田思想 |
| 81 | 上 | 道徳指導計画をうらがえす | |
| 86 | 上 | よって成った | よった成った |
| 91 | 上 | 明6・10・15 | 明6・11・15 |

# 百年花田学校誌

花田小学校図書館蔵書

豊橋市立花田小学校

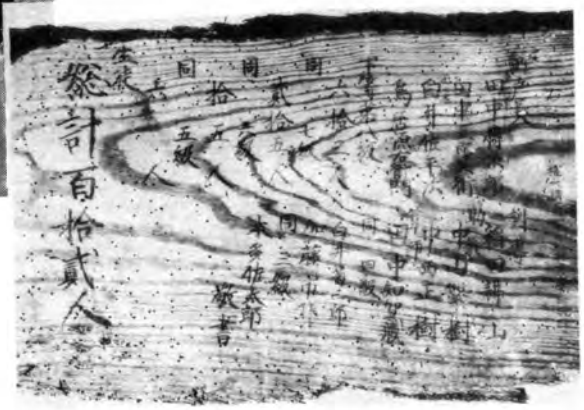
創立百年記念事業実行委員会

校旗（昭和39年度調整）

「誦習」をきざむ記念碑

誦習　　小野湖山書
誦習の由来　白井烟嵓書

表紙題字・白井永二（鶴岡八幡宮宮司）



明治9年5月「誦習学舎」扁額の裏面

# 巻頭のことば

豊橋市長
河合陸郎

創立百年記念事業
実行委員長
佐藤喜三郎

花田学校同窓会長
山本　薫

豊橋市立花田小学校長
近田孝二

花田小学校ＰＴＡ会長
山崎一正

花田小学校は，明治６年（1873）10月15日，渥美郡第十中学区第四番小学幡太学校として羽田村浄慈院に開校し，明治９年新築したその校舎を誦習学舎とよんだ。その後位置，校名，学区など外観，内容共に幾多の変遷を経て，ここに満100年を迎えた。

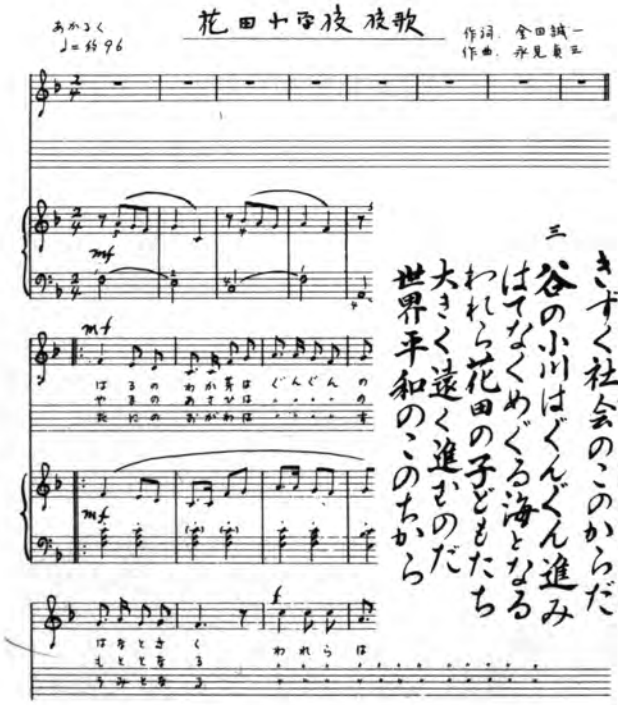
この間に卒業した多数の先輩は，それぞれの時代に，それぞれの場において国家社会に貢献した。また，そこに学ぶ者は常に花田学校の伝統と栄光を受継ぎ伝えてきた。

時代により多少の軽重はあるものの「誦習」の語と精神は本校の伝統として現在まで引き継がれている。

創立 100年に当り，本校の歴史をできるだけ正確に記録に止めるとともに，誦習の文字を記念碑に刻み，その栄光を永く後世に残したいと思う。

昭和４８年１０月１４日

花田小学校正門と第一校舎（昭48. 9. 15）




# 校歌

金田誠一作詩
永見貞三作曲

一 春の若芽はぐんぐんのびて
みどりはえる花と咲く
われら花田の子どもたち
けだかく清くのびるのだ
人のほまれのこのこころ

二 山の朝日はぐんぐんのぼり
あたりをてらすもとになる
われら花田の子どもたち
あかるく強くのぼるのだ
きずく社会のこのからだ

三 谷の小川はぐんぐん進み
はてなくめぐる海となる
われら花田の子どもたち
大きく遠く進むのだ
世界平和のこのちから

# もくじ


巻頭のことば …… 3

庶民の教育寺小屋・私塾 …… 6

歩みだした学校 …… 10

固まった教育制度 …… 24

大正デモクラシーと教育 …… 36

戦争と児童 …… 52

期待される児童像を求めて …… 70

未来へ伸びる花田 …… 88

児童数の変遷・恩師　ほか …… 92

昭48．9

## 明治元年（1868）

王制復古（1・3）

戊申戦争おこる（1・27）

五ケ条の御誓文（4・6）

江戸を東京とする（9・3）

**羽田野敬雄，孝子・節婦とその家族36人を集めて表彰する。藩主信古列席する（9）**

## 明治2年（1869）

開成所（開成学校）授業開始（2・27）

政府小学校設置を奨励する（3・17）

藩籍奉還により，吉田を豊橋と改称，藩主松平信古は豊橋藩知事となる（6）

## 明治3年（1870）

「小中学規則」を定める

東京府　小学6校を開設する布達をだす（6・6）

## 明治4年（1871）

郵便開始（3）

廃藩置県により豊橋藩から豊橋県となる。

豊橋県を額田県に併合する（11・15）

文部省を設立（9・2）

文部省に編集寮を置き教科書等の編集を始める

## 明治5年（1872）

府県の学校をすべて文部省の管轄とする（1・5）

文部省学制取調掛を任命する（1・11）

藩校，時習館を廃止する。

成章義塾設立。（4）

成章義塾を廃止し，豊橋に4郷校（後に5）設立する（8）

東京に師範学校を設立する（7・4）

文部省に教科書掛をおき小中学校教科書の編さん。師範学校にも編集局を置く（11）

太陽暦を採用する（12・9）

名古屋県，額田県は愛知県となる（12）

花田の寺小屋・私塾――明治のはじめ

| 名　称 | 師匠 | 廃止 | 生徒数 | 場　所 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 正行院 | 僧 | 明6 | 20 | 中柴 | 現廃寺 |
| 久保田和助 | 商 | 明6 | 10 | 中柴 | 女子のみ |
| 正林寺 | 僧 | 明6 | 20 | 花ケ崎 | |
| 浄慈院 | 僧 | 明6 | 85 | 羽田 | 筆子多し |
| 清源寺 | 僧 | 明5 | 15 | 羽田 | |
| 松蔭学舎 | 神 | 明6 | 6 | 羽田 | 国学 |
| 誦習舎 | | | | | 門下81名 |

当時，寺小屋として使われた建物という。現在は改装して民家　――浄慈院――

寺小屋などで使われた書籍の一部

――浄慈院――

# 庶民の教育寺小屋・私塾

学制以前の教育機関には庶民の子どものために読み書きを学ばせた寺小屋，漢学，国学，洋学などの学者が開いた私塾，それに武士の子どものために儒学を教育の中心において各藩の領内に設けた藩校があった。

これらの学校が，江戸時代からあって，幕末から維新にかけて広く普及していた。（県内に約四千）これが学制による全国的な教育を実施できるもととなった。

山澄覚禅師の墓碑裏

「子弟中」の銘が見える

覚禅師は浄慈院住職，寺小屋の師匠，幡太学校創立期の教員であった。おそらく寺小屋時代の筆子の手によったものであろう。

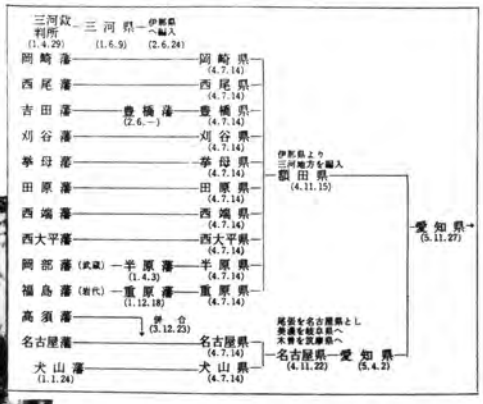
筆　塚

寺小屋の筆子が日頃使った筆の供養のため建立したもの

―浄慈院境内―

愛知県の成立

（「愛知県教育史第三巻」より）



学問信仰の稲荷堂

―― 浄慈院 ―

# 羽田八幡宮文庫と市立図書館

**嘉永元年（1848）**

羽田野敬雄らによって，文庫設立（9・2）

**安政2年（1858）**

閲覧所として「松蔭学舎」を建つ。

**慶応3年（1867）**

1万巻を越える。閲覧者多し。

**明治15年（1882）**

羽田野敬雄没す（6・1）

**明治40年（1907）**

元の位置にあって一般閲覧を行なっていたが，経営苦しく分散の余儀なきに至る。

**明治44年（1911）**

市議会で図書館建設の件議決（9・27）羽田八幡宮文庫蔵書9,271冊を買い戻す。（11・7）

**大正2年（1913）**

花田町字守下へ豊橋市立図書館として開館する（1・15）

**大正5年（1916）**

学校教員に優待券を発行

**昭和8年（1933）**

教員対象の巡回文庫はじまる。（花田小は松葉についで2番目であった。）

**昭和13年（1938）**

新館竣工。西八町32へ移転する。

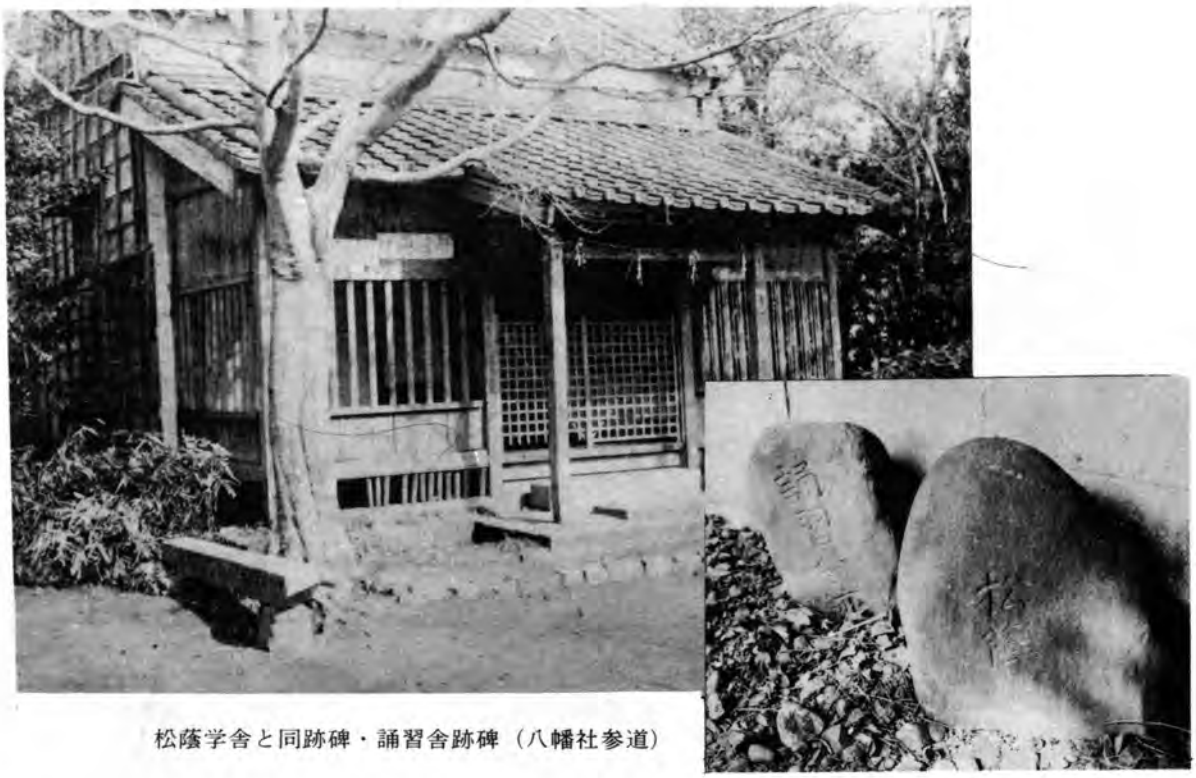
**昭和24年（1949）**

児童巡回文庫はじまる。

**昭和42年（1967）**

「豊橋市民文化会館」として移転

向山大池町20の1（10・1）



松蔭学舎と同跡碑・誦習舎跡碑（八幡社参道）

羽田八幡宮文庫書庫

羽田野敬雄（栄木）翁

文化会館における羽田八幡宮文庫

## 藩校 —— 時習館

| | |
|---|---|
| **宝暦２年（1752）** | 創立 |
| **慶応４年（1868）** | 新時代に対処「漢学寮」設置 |
| **明治３年（1870）** | 素読所を小学校と称す。「皇学寮」設置。 |
| **明治５年（1872）** | 廃止 |

吉田城と時習館の位置
（城内にあるのは珍しい）